

しろい子どもプラン(第 3 期白井市子ども・子育て支援事業計画)
白井市 子育て支援団体等へのインタビュー(概要)

○開催日時

令和 6 年 5 月 27 日 (月) 午前 10 時から 12 時 00 分

○開催場所

白井市役所 保健福祉センター 3 階 団体活動室 2・3

○主 旨

市の子どもや子育ての支援に尽力いただいている団体、主任児童委員から、日頃の活動で子どもや子育て家庭と接する中で感じることや課題点などについて、計画策定の参考とするため、グループインタビュー形式で聞き取り調査を実施した。

○参加者 (13 名)

こども食堂：4 団体 (7 名) 学習支援団体：2 団体 (3 名) 主任児童委員：3 名

◆支援者(団体・主任児童委員)同士の交流

- 支援者の大部分が、お互いに顔を知っている。

◆生活が困窮していると思われる子育て世帯の動向

- 事前アンケートでは「ずいぶん増えた」、「増えた」の回答があった。「増えたように感じる」が挙手で半数以上。【こども大綱重要事項:1(4)こどもの貧困対策】
- 食材配布を約 80 世帯が利用している。希望者が増えている。生活状況が変わったことによる影響と思う。【こども食堂より】【こども大綱重要事項:1(4)こどもの貧困対策】
- 学習支援で、応募者が増えている。(活動の知名度があがったことによるかもしれないが)ここ 2～3 年は 20 人程度の定員がほぼいっぱい状況。【学習支援団体より】【こども大綱重要事項:1(4)こどもの貧困対策】

◆気になる子ども・家庭と接した経験

- 事前アンケートでは「服装や髪など身なりが不衛生」「身体の成長や季節に応じた服装をしていない」「精神的な不安定さがある」「学力が低下している」「学校を休みがちなどである」の回答。
- 一例として、日本の戸籍がなかった子ども、学校行事等にも両親の興味がなく、祖母が子どもの面倒を見ていた。父が日本人、奥さんが外国籍の方だった。【学習支援団体より】
- 学習支援で、学校に行っていない子どもが年に 1 人くらいはいる。学校には行けないが学習支援の会場には来ることができる。【学習支援団体より】
【こども大綱重要事項:2(2)学童期・思春期(不登校の子どもへの支援)】
- 学習支援で、自閉症のように思われる子どもはいる。一人は 3 年くらい通い、試験を受けて高校に入った。【学習支援団体より】【こども大綱重要事項:1(5)障害児支援・医療的ケア児等への支援】

- 高校生の子どもが、「死にたい」と言ってきたこともある。少し障害のある子どもで、母親はどこかに出て行っていない状態。ガス・電気も止まっていた。急場でカップラーメンを渡し、翌日は当人のアルバイト先の様子を見に行った。【主任児童委員より】【こども大綱重要事項:1(7)こども・若者の自殺対策】
 - 乳幼児の親子との関わりの中、親が疲れている様子や、特に一人目の子育てでは発育を気にしているママに会うことがある。(事前アンケートより)
- 【こども大綱重要事項:1(5)障害児支援・医療的ケア児等への支援】

◆行政・団体・市民の連携

- 事前アンケートでは、他の団体や機関と情報をやりとりすることが「ほとんどない」が最多(8名)。
- 活動団体と行政がどう関わっていくかが重要だと思う。白井市はその連携が希薄ではないかと思う。団体側から行政に積極的に働きかけなければ動かない。【学習支援団体より】
- 活動の周知案内をお願いしても、協力的な学校ばかりではない。学校は様々な活動について知らせやすい場と思うが、市民団体は学校に入りにくい。【学習支援団体より】
- 行政側の窓口として、特定の職員にいつも相談する。気になる子どもについてスタッフ間で「市に相談した方がよさそう」となるとその人に相談する。【学習支援団体より】
- 幼児は保健師、虐待が疑われる時は家庭児童相談室、学校でのことや不登校は教育相談室に相談している。【主任児童委員より】
- 滋賀県の自治体の視察では、一人の子どもの課題に関わったら対応する部署を全部つなげていくという事例があった。一つの部署だけで対応できるものではない。市民団体がまとまり連携するというよりも、市がそこをやるべきと思う。民間の団体では、個人情報への壁もあって対応できない、【学習支援団体より】
- 活動参加者約8人の中に行政の職員が3人くらいいるため、市役所にもすぐにつながる。活動団体内に行政のメンバーが1人でもいると活動しやすい。【こども食堂、主任児童委員より】
- 児童館スタッフだった頃、真冬なのに半袖、汚れた体操服をずっと着ている子どもがいた。学校の先生も気にして児童館に様子を聞きに来たことがある。児童館では、乳幼児で健康状態などが気になったら保健師さんに連絡、小学生で身なりや服装が気になった時は学校に連絡。【主任児童委員より】
- 高齢者の支援である家庭に行った時、家には風呂がなく、子どもは学校にも行っていない様子が明らかだった。高齢者は介護保険等で食事ができているが、その子は食べられない、服もない。そういう時、連携をどうすればよいか課題。【こども食堂より】
- 情報があまり入ってこないようになった。以前は個人の名前付きで情報をもらえていたが、最近は細かい情報が得られにくい。中学校でも個別のことではなく全体で「不登校の子が〇名います」といった情報しか聞けない。【主任児童委員より】
- ご近所の方などからも情報を得ている。(事前アンケート)

- 情報提供について。市にこういった団体があることがあまり知られていないと思う。支援の必要な人が適切なところに結び付いていないと感じる。【学習支援団体より】

◆支援等のあり方

- 見守りにはたくさんの目が必要だと感じる。子ども食堂も、学習支援も、多くの人が気にかけることがまずは大事だと感じている。【主任児童委員より】
- 人とのふれあいは、昔は口コミ、今はSNS。便利が、かえってリーチできない人や除外される人もいる。【主任児童委員より】
- 乳幼児の保護者は、子育て支援センター、子育てひろばなどの行き先もあって悩みも解決できることがある。そこに来られない保護者が多くいそうな気がする。一人で行けなければ一緒に行こうと誘い合うなど、一歩踏み出せるようになってよい。【主任児童委員より】
- ボランティアの人が増えてきていてありがたい。今は食材配布中心だが、直接会う機会も大事と思い、年4回、勉強しながらお兄さんお姉さんとの交流の場というものをやっている。よい居場所づくりになっているのかと悩むこともある。【こども食堂より】

【こども大綱重要事項:1(2)多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり】

- 課題があると思われる当事者のお母さんにも理由があると思う。自分は辛い時、普通に話しかけ、普通に接してくれたことがなによりもありがたかった。地域の人も「こういうこともあるよね」と優しい気持ちを持ってくると嬉しい。SNSもよいが、地域の人に、今日の会のような団体・活動の話が広まっていくとよい。【こども食堂より】
- 皆がフラットに、壁を作らずに過ごすことがよい。ほどよいおせっかいとでも言うか。配慮ばかりに気がいってしまうと、ほどよいおせっかいができない、前向きな交流に対してためらいを持ちやすい時代とも思う。コミュニケーションが怖い人が取り残されている現状があるのではないか。【こども食堂より】

【こども大綱重要事項:3(2)地域子育て支援、家庭教育支援】

◆子どもや家庭への支援の障壁

- 「個人情報」の壁を感じる」が挙手で 10 名。
- 「家庭の問題にどこまで踏み込んでよいのか判断できない」が挙手で 12 名。
- 髪の毛が目の下まで伸びている子ども。本人がそれでよいと思っているのか、家族がそれでよいと思っているのか、判断がつかないことがあった。【学習支援団体より】
- 中学生で分数ができない子どもの学習支援で、プリントを作って、勉強した結果を親に見せるよう言ったが、見せてないのか、親が見ようとししないのか。そのうち、週2回の開催日に来られなくなってやめていくという事例があった。【学習支援団体より】

◆子ども・家庭と接する時に心がけていること

- あまり踏み込まないようにしている。こちらから追ってはいかず、聞きたいことはあっても追及するより、話してもらえそうな雰囲気になつていく。【学習支援団体より】
- その家庭が貧困状態なのか母子家庭なのかなどには気を付けている。【学習支援団体より】
- 服装が汚れている時なども、周りの子どもがその子をどう見ているか、その子ども自身がどう感じているかに気を遣うようにしている。【学習支援団体より】
- 保護者も悩みを言いたくないというか、自分の課題などについて知らない人の方が話をしやすいということもあると思う。敢えて課題について聞いていかないこともある。【学習支援団体より】
- 今は、特に服装にはあまり季節感がないので、好んで季節外れの服装をしている場合があるため、様子を見るようにしている。(事前アンケート)
- 来訪された親子には必ず声かけをして、困っていることを気軽に話せるような雰囲気を作っている。食料配布を希望された方には、不定期に連絡してもよいことを伝えている。(事前アンケート)
- 開催時にはゆっくり時間をかけて話をしたりすることがないので、とにかく明るく「また来月ねー」と声かけしている。(事前アンケート)

◆活動を続けていく上での課題：①活動の拠点・場所・施設等

- 学習支援活動の会場が抽選ではずれてしまうと活動ができない。週2回、優先的な使用に配慮してもらえると助かる。【学習支援団体より】
- 90 世帯近くに食料配布をしており、倉庫・センターのような拠点が無いのが悩み。食料の保管ができる倉庫のようなものがあればと思う。【こども食堂より】
- 学習支援の場所が遠いので行きにくいと言われることがある。市内に学習支援が少なく、やっているとこも遠い、なんでこっちでやらないのという声がある。実施する場所が足りない。【学習支援団体より】

◆活動を続けていく上での課題：②活動に関わるスタッフ・人材確保等

- 10 人くらいで学習支援活動を実施。1 対 1 での指導が理想だろうが、1 対多数で対応。スタッフができればいいのだが、なかなか集まらない。受講の希望は増えているが教える人がいない。【学習支援団体より】
- スタッフにはボランティアの人と、職員で給与の発生する人がいる。ボランティアの力が必須だが、無償・有償の人が混在することでボランティアの人のモチベーションに影響があるように感じる。【こども食堂より】
- これまでボランティアで成り立っていた部分がこの先は難しいのではないかなと思うこともある。【こども食堂より】
- 少ない人数でやれるように工夫をしている。例えば子ども同士が教えあう、中学生が小学生に教えてあげるなど。子どもの自主性や教える子も自分がよく覚えられるといった良い点もあるが、限界があるのでスタッフ募集は続けている。【学習支援団体より】

【こども大綱重要事項:1(2)多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり】

- ボランティアの人がいっぱいいるが、高齢者ばかりなので若いボランティア参加者がほしい。【こども食堂より】
- 障がい者のボランティア活動がなくなって、新しい活動を始めたが、参加者に元の活動の輪があり、新しい人がそこに入るのか難しい。【こども食堂より】

◆活動が続けていく上での課題：③活動に関わる費用・経済的な問題等

- 学習支援で市の支援が4回もらえていたが終わってしまった。外部の資金がないと成り立たず、年間10万くらいは市民カンパをもらっている。【学習支援団体より】